





南部アフリカ4カ国周遊の地図

合流しました。今度の飛行機は南アフリカ航空のジャンボ機で、これから13時間30分のフライトです。なんと深夜にもかかわらず機内食のサービスがありました。今度も完食。食後に映画を観ましたが、今度は日本語の吹き替えはありませんでした。それでもアクション映画やディズニーのアニメ映画だったので楽しめました。飛行機では座って寝るのですぐに目が覚めてしまいます。深夜は暗いと思うのだけど、ブラインドを開けてみたら午前3時頃でも雲の上は青空で太陽が眩しく昼みたいでした。

◆2005年12月24日(第2日目)

午前7時20分に南アフリカの首都ヨハネスブルグに到着しました。飛行機を乗り継ぎビクトリアフォールズへ。今度の飛行機は小型機で、テレビ也没有。驚くことに出発時刻よりも10分も早く出発してしまいました。南アフリカではぐずぐずしていると乗り遅れてしまう恐れがあるので要注意。

約2時間のフライトでジンバブエのビクトリアフォールズに到着。ここでショッキングな出来事。トランクを2つ持ってきたのに出てき

たのは1つだけで、もう1つはロストバッグ。それでも1つ出てきただけ幸せで、お父さんの友達4人は荷物なしの旅となってしまいました。空港を出ると、たった1つのトランクをポーターが頭にのせて車まで運んでくれました。

ホテルまでの道路の両側は国立公園でゾウ、キリン、ライオンなどがいるそうですが、車からはイボイノシシとデブットモンキーしか見られませんでした。ホテルには大きなムカデがいて、僕が息を吹きかけたらサザエの貝殻みたい



来年の干支、イボイノシシのお出迎え



轟音とともに流れ落ちるビクトリアフォールズ

いよいよ観光の始まり。まずは世界遺産に指定されたビクトリアフォールズ。現地では「モシアトゥンヤ＝轟く水煙」と呼ばれています。アフリカの大地の割れ目に白い水煙をあげて流れ落ちる幅 1,701m, 落差 118m のビクトリアフォールズは、ナイアガラ、イグアスと並び世界最大級の滝で、ザンビアとジンバブエを分かちます。ホテルを出て 10 分くらい歩くと、滝の姿は見えなくとも轟音が聞こえだし、近づくにつれて音は勢いを増し、水煙が立ち上がっているのが見えました。滝が目の前に現れた時には、大自然が造り出した芸術ともいえる大瀑布に圧倒されました。轟音を立てて流れ落ちる迫力のある滝の姿は壮大で、「スゲー」の一言。そばで見ているだけで全身びしょ濡れになってしまいました。19 世紀にリビングストーンがビクトリアフォールズを発見した時も、きっと僕と同様に驚嘆したに違いないと思います。

ホテルの夕食で、生まれて初めてワニの肉を食べました。以外に美味しかったです。

◆2005 年 12 月 25 日(第 3 日目)

陸路で国境を越え、オカバンゴの玄関口であるボツワナのカサネへ。国立公園内の道路はまっすぐな一本道です。ヒヒやインバラが沢山いました。クドゥが道路を跳びはねて渡っていき

ます。あちらこちらに大きなアリ塚がありました。ザンベジ川を渡ると国境です。検疫所では土を落とします。人は車から降りて指定された道を歩き、車は水の溜まっている道をゆっくりと通過してから入国します。道にはフンコロガシがいっぱい死んでいました。

カサネからはプロペラ機でオカバンゴ・リニャンティ野生保護区のキャンプ地へ。パイロットは 1 人だけなのでパイロットの隣の操縦席が空いていました。そこでパイロットに英語で「隣に座ってもいいですか」と訊ねたら【本人は座席を指さして“OK”と言っただけのように見えましたが・・・】、「いいよ」と言ってくれました。ふつうは座れない操縦席に座らせてもらえて、大感激。約 1 時間の飛行でした。初めてパイロ



エアタクシーにてオカバンゴデルタへ



操縦席に座って「はい、ポーズ」



オカバンゴ湿原の風景



オカバンゴのキャンプ

トの操縦を見ました。上空から見下ろすと、木が沢山ありその木がブロッコリーみたいでした。道はほとんどが一本道で直線でした。上空からだとな部分的にスコールの箇所が判り、そのところでは稲妻も見えました。また、ゾウ、ステインバック、カバ、ヌー、キリン、インパラと、沢山の動物を見ることもできました。

滑走路の脇にサファリカーが待機していま

た。サファリカーの座席は階段状になっていて、僕は一番高い後ろの席に座ったのですが、助手席が空いているので、次からは助手席に座ろうと思いました。まずは滑走路からロッジへ直行。早くも道中でゾウに遭遇し、ワクワクしてきました。

キャンプ地の部屋はバンガローで、このロッジには最大20名しか宿泊できないそうです。



部屋の横の巨大なアリ塚



座席が階段状のサファリカー

夜に動物と出くわさないように母屋から各バンガローへは渡り廊下を歩いて行きます。部屋がすごく綺麗で、ベッドには蚊帳がありました。僕の部屋の横には巨大なアリ塚もありました。

いよいよゲームサファリに出発。もちろん、助手席です。湿原の女王サドルビルドストークという鳥がいました。沢山のシマウマやヌーがいます。そんなに探すことなくライオンの母子を見つけました。車から3mくらい先にいる

ライオンをずっと見ていたら、寝ている母ライオンを2匹の子供ライオンが起こして、母子でどこかに行ってしまいました。怖いと感じるよりもかわいいと思いました。おしっこがしたくなったので車から降りておしっこをしようと安易に思いましたが、ガイドに危ないから安全な場所を探すまで少し我慢するようと言われてしまいました。車から間近に動物を見れても、降車した途端に自分がエサになるとはビックリ。周りに何も無い見晴らしのよい場所で降車しておしっこをするのは恥ずかしかったです。でもお父さんの友達のおじさんと一緒に連れションしました。

日が沈み、ナイトサファリに突入。運転手が運転しながら電灯を持っていたので、英語で「電灯を持ってもいいですか」と訊ねたら【本人は電灯を指さして“OK”と言っただけのように見えてましたが・・・】、照明担当にしてくれました。暗闇の中夢中で動物を捜すも、みんなに「何処を照らしているの」と言われ続け、最後の最後にインパラを見つけて面目躍如。ホテルに到着。部屋の外にはホテルがいっぱい。夕飯はおいしかったし、生まれて初めて蚊帳の中に入って眠りました。今日は最高のクリスマスです。

◆2005年12月26日(第4日目)

今日は午前と午後にサファリカーに乗ってゲームサファリ。午前中のゲームドライブでは、



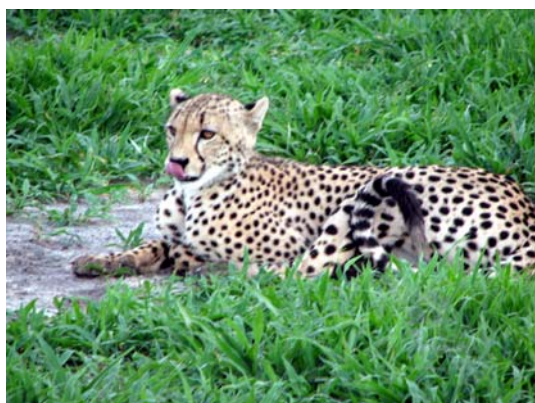
インパラの群れ



草原の狩人ジャッカル



大口を開けるカバ



草原の貴公子チーター

カバ、ワニ、ジャッカルを見ました。カバは1匹しかおらず、近寄ったら怒って暴れるようにしてどこかへ行ってしまいました。ワニは湿地にいたので間近で見られませんでした。ジャッカルは肉食動物とはいえキツネみたいでかわいらしかったです。次のゲームドライブは夕方4時から。アフリカでは日中の暑い時には動物は

寝ているというので、人間も動物に倣い夕方までみんなで寝ることにしました。

本日2回目のゲームドライブ。午前中と違ってカバが群れでいました。なによりもチーターを3匹も見ることができました。チーターはカッコよかったです。チーターはめったに見られないとお父さんに言われていただけに、すごく

ラッキーでした。

オカバンゴ湿原は、ナミビア、アンゴラ、ジンバブエに囲まれた完全に内陸の国であるボツワナの大湿原です。国土の80%をカラハリ砂漠が覆うボツワナには、水源らしいものは他には見当たりません。しかしこの巨大な湿原は、人が知る限りで3000年以上も前から一度も水を枯らしたことがありません。想像を絶する速さで砂漠化が進むアフリカの内陸でこのオカバンゴの水源は、環境の変化に翻弄されながら命と種を紡いできた人間にも、野生の動植物にとっても奇跡といえる水源です。

源流のオカバンゴ川を中心に、湿原は日本の北関東3県を併せたほどの広大な範囲に広がっています。流れはときにパピルスの生い茂る小島や、ときにいくつもの集落を抱える大きな島をつくりながら、いく筋もの支流に分かれ、やがてはその水もカラハリ砂漠に消えていきます。この自然を生み出した奇跡の湿原の住人たちのことを想像してみてください。巨大なアフリカゾウの群れが悠々と大きな流れを渡っていたり、いつも半分水の中にいるような臆病な赤いレチエ(アンティロープ)が水を蹴り上げて走ります。林を抜けてキリンの家族も歩いてくるし、遠くの草原にはひと塊になったシマウマの群れ。湿原にはいつでも花と鳥が絶えません。水辺に暮らす動物はもちろん、ライオンやレパードな

どの大型肉食獣もここに集中し、楽園の暮らしを営んでいます。オカバンゴを“最後のエデン”と感じなかった人はいないはずですよ。

◆2005年12月27日(第5日目)

早朝、サファリカーに乗っての最後のゲームサファリに出発。最初に出会ったのはキリンの家族。ライオンの母子がまた見られましたが、運転手は何とか時間内に雄ライオンを捜すと言って、張り切って走り回ってくれました。その甲斐あって最後の最後に雄ライオンを1mくらいの近さで見ることができました。大感激のハッピーエンド。チーターとかライオンを近くで見られて本当に嬉しかったです。大人になったらもう一回オカバンゴに行ってみたいと思いました。

オカバンゴ・リニヤンティ野生保護区のキャンプ地からプロペラ機でカサネへ戻り、車でチョベ国立公園へ。

ホテルに着後、チョベ川のサンセットクルーズに出発。チョベ川のボートサファリは野鳥観察の絶好のチャンスと言われ、楽しみにしていたのですが、野鳥はあまり見られず、見られたのは岸辺で動かないワニ3匹と50頭以上のカバの群れ。クルーズは退屈でしたが、最後に見たカバの大群は圧巻でした。



キリンの家族



風格漂う雄ライオン

◆2005年12月28日(第6日目)

早朝のサファリドライブに出発。オカパンゴでは縦横無尽にサファリカーが走り回ったのですが、ここでは道から外れることはしません。サファリパークのようで退屈です。なかなか動物にも出会うことなく、停車中には動物を双眼鏡で捜すよりもフンコロガシが糞を転がしているのを見ていました。すると、車の脇を4匹のリカオンが走っていきました。リカオンの後をサファリカーが追尾します。ラッキーなことに、リカオンが子供のインパラをハンティングするところを目の当たりにすることができました。ホテルへの帰路、60頭以上ものゾウの大群に遭遇しました。運転手はうまくかわしながら運転していましたが、ゾウがサファリカーに向かって突進してくるので恐かったです。

ホテルに戻ると、僕たち一行のトランクが見つかったようで、届けられていました。よかつ

た！よかつた！

午後からは、ゾウサファリをしました。ゾウの背中に乗って手綱を掴むだけなので、けっこう不安定です。ゾウに乗っている時は寝たら危ないと注意されていたのですが、僕は揺れが心地よくてついウトウトしてしまい、ゾウ遣いにすごく怒られました。ゾウに乗ってインパラ、クドゥ、ウォーターバックを見ました。気持ちよかつた～。

チョベ国立公園のチョベ川は南部アフリカ最大のゾウの生息地で、水を飲みに来たゾウの大群や、カバの群れ、パツファローの姿が夕陽を背景にして“アフリカのシルエット”を描きだします。ここにはセーブルを始め、クドゥなど美しいアンティロープ類が豊富に見られます。もちろんライオンやリカオンなどの肉食獣にも出会えます。



絶滅の危機、リカオンも獲物を捕らえた



ゾウに乗ってサファリ

◆2005年12月29日(第7日目)

今日は飛行機に2回乗りました。ヨハネスブルグまでは国際線、そこから国内線に乗り換えてケープタウンへ。国際線では職員の手違いによりビジネスクラスに座れたので、快適でした。着後、ホテルにチェックインしてからショッピングモールへ行きました。そこには回転寿司店があり、夕食は回転寿司にしました。サンドイッチのように三角や四角に切った押し寿司や七味唐辛子で真っ赤になっている鮪のにぎりなどにトライしましたが、「スゲーまずい！」。

◆2005年12月30日(第8日目)

今日はケープタウンとケープ半島の1日観光です。まずは遊覧船にて約1時間のクルーズでアザラシが群棲するドイカー島を訪れました。

小さな島いっばいにアザラシがいます。海にも沢山のアザラシが泳いでいました。

下船後、アフリカ大陸の最南西の岬である喜望峰と最南端の岬であるケープ・ポイントに向かいました。ケープ半島一帯が自然保護区に指定されており、ダチョウやシマウマ、ヒヒなどの野生動物も生息しています。最南端にあたるケープ・ポイントには灯台が建てられ、ここを航海する船の目印となっています。灯台までは遊歩道が整備されており、足を運ぶことができますようになっています。一瞬ここが喜望峰かと思いがちですが、そうではなく西側に伸びた岬が喜望峰にあたります。ケープ・ポイントからは、インド洋と大西洋が交わり、水平線が180度以上の展望で広がっている雄大な風景を目にすることができました。



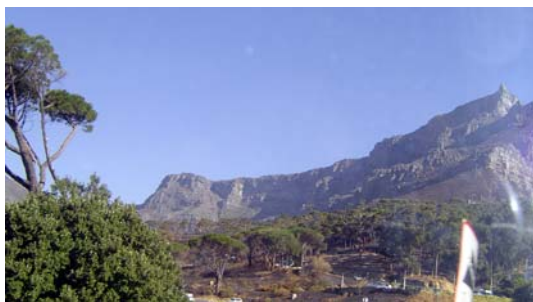
アザラシの島を遊覧船から見学



アフリカ大陸最南西の岬、喜望峰



アフリカペンギンの営巣地ボルダーズ・ビーチ



ケープタウンを見下ろすテーブルマウンテン

1488年、ポルトガル人のバルトロメウ・ディアスが喜望峰に到達し、「嵐の岬」と名づけました。謂われは、インド洋と大西洋が交わるために悪天候だと海が荒れて非常に航海が困難だったからとのこと。後のバスコ・ダ・ガマによるインド航路の開拓を機に、ポルトガルに喜びをもたらすという意味で「喜望峰(ケープ・オブ・グッド・ホープ)」と改名されたそうです。

昼食にケープタウン名物の大きなロブスターを食べました。これは、「スゲー美味しい!」。食後は野生のアフリカペンギンが生息しているボルダーズ・ビーチに行きました。ペンギンの海岸と言われるだけあって、おびただしい数のペンギンがいます。人をあまり怖がらず、悠然と日向ぼっこをしている可愛らしい姿がとても印象に残っています。

帰路、イギリス植民地時代の首相セシル・ローズが所有していたカーステンボッシュ植物園に寄りました。テーブルマウンテンが町を見下ろすように背後に控えるケープタウン。世界で

も屈指の美港で、美しい海岸線に沿った変化に富んだドライブを楽しみました。残念なのは、ロープウェイでテーブルマウンテンに登ってケープタウンを見下ろせなかったことです。僕は登りたかったのですが、ロープウェイに乗るには3時間待ちで、お父さんがみんなに「やめよう」と言ったのでした。反対したのが僕だけとは...

◆2005年12月31日(第9日目)

今日は飛行機でナミビアの首都ウィントホックへ。そこから車に6時間乗ってナミブ・ナウクルフトパークへ行きます。飛行機の窓からケープタウンの街並みとテーブルマウンテンの頂上が見れたので嬉しかったです。

ウィントホック市街は舗装道路ですが、それ以外の道は悪路です。6時間も車に乗っているととても疲れました。荒涼とした景色が広がる中、エラットやスプリングリバックなどのシカや牛のようなオリックスを見ました。

今日は大晦日です。2005年最後の日が沈むのを見てから2005年の泳ぎ納めにロッジのプールでお父さんの友達と30分くらい泳ぎました。夜にロッジの宿泊客全員がロッジの車で砂漠に連れて行かれました。フェアウエルディナーパーティーは、砂漠でキャンプファイヤーをしながらの豪華なバーベキューです。生まれて初めてクドゥのステーキを食べました。以外にやわらかくて美味しかったです。野外なので満天の星が天井照明、まるでプラネタリウムにいるみたいでした。オリオン座や南十字星を見ました。天の川は沢山の星が輝いてとても綺麗でした。2005年サヨウナラ！

◆2006年1月1日(第10日目)

新年明けましておめでとうございます(ア・ハッピー・ニュー・イヤー)。朝4時30分に起

きて5時からドライブに出発し、2006年の初日の出を砂漠で見ました。地平線から眩しいオレンジの大きな光の球が昇っていく光景は、とても素晴らしかったです。

日の出を見た後はソッサスヴレイの大砂丘へ。途中DUNE45も訪れました。DUNE45とは砂丘が45km連なっているとのことで、たしかに沢山の砂丘を車中から見ました。細長いナミブ砂漠の中でも美しさを競うソッサスヴレイの大砂丘。世界最大級の高低差を誇る独特な赤色の大砂丘です。僕は砂丘の頂上まで登りました。そして頂上から一気に転がり降りて、砂だらけになりました。これをやれて満足、とても楽しかったです。

ナミブ砂漠は、南北1,600km、幅40~130kmの細長い砂漠です。地球の自然史のなかでも最も古い砂漠といわれています。大西洋から吹く



ナミブ砂漠の大砂丘ソッサスヴレイ



目指すは大砂丘の頂上

風によって美しい砂丘が形成されました。このソッスヴレイ砂丘は世界最大の落差を誇り、砂漠の強烈な太陽が印象的な光と影の風景を造ります。

午後からはセスリウム溪谷を訪れました。ここは砂漠の中にある深い溝で、下を覗きこんだら怖かったです。これで観光は全ておしまいとなり、少し寂しい気がしました。

ロッジに戻り、2006年の初泳ぎをしました。プールに入っていると砂嵐(竜巻)が通過していき、ビックリしました。周りの人は結構慌てていましたが、僕は水の中から「スゲー」と思い、様子を眺めていました。夕食時にお父さんが日本から持ってきたお餅でお雑煮を作り、おとそ用に日本から持ってきた日本酒を升に注いで、ナミビア人ガイドと一緒に日本式の新年を祝いました。夕食後、ロッジの人がバンガローの屋上に寝具を用意してくれたので、星空を見ながら眠りました。

◆2006年1月2日(第11日目)

今日からは日本へ向けての帰路です。朝5時に起床し、6時にロッジを出て正午に空港に着きました。ガイド兼ドライバーのおじいさんと友達になったばかりなのに、もうお別れです。とても寂しい気分になってしまいました。飛行機は13時45分にウィントホックを出発し、15時15分にヨハネスブルグに到着。そこから便を乗り継ぎ、香港へ。

◆2006年1月3日(第12日目)

12時30分に香港に到着。空港内のレストラ

ンで飲茶を食べてからお父さんの友達4人と別れました。僕とお父さんは15時15分の飛行機に乗り、20時10分に成田に着きました。それから電車に乗り、家に着いたのは午前0時ちょっと前でした。

また行ってみたい。とても楽しかったです。楽しかったことを一言では言い表せません。僕の素敵な思い出。

ナミビアを代表するナミブ砂漠は、黄金色に輝く砂の山、砂の波、乾燥した音のない世界にも動植物たちの静かな息遣いが感じられます。砂漠に沈む太陽を背景に、どこからともなく行き過ぎるジェムスボックや、どこまでも砂の景色にたった1本立つ木には、その枝に緑の葉さえつけていたり、ナミブは美しさだけでも十分に感動させる砂漠です。そして砂の世界から一転して“奇跡の湿原オカバンゴ”へ。ここはもう言うまでもなく野生の楽園。溢れる泉に花々の絶える季節はなく、群れ集う野鳥も動物たちも安心して命を紡ぐ楽園の暮らしを営んでいます。ナミブ砂漠とオカバンゴ、この二つの対極が表すようにアフリカは変化に富んだ魅力に溢れる大陸です。ボツワナ、ナミビア、ビクトリアフォールズのジンバブエ、開拓の歴史と人々の暮らしを垣間見る南アフリカ、南部アフリカ4カ国の見所を12日間で周遊してきました。

是非、読者の皆様も驚異の大自然に満ちた南部アフリカを堪能してみませんか。